

あいち病害虫情報 最新情報

令和6年4月16日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

ムギ類の病気（赤かび病、うどんこ病）

ムギ類赤かび病は、開花期から乳熟期に降雨が多く、気温が比較的高い（20～27℃）と急激に感染が拡大します。名古屋地方気象台4月11日発表の1か月予報によると、向こう1か月の気温は高い見込みです。気温の上昇により作物の生育が早まると考えられます。また、今年に入り気温の変動が大きく、生育がばらついている可能性があります。ほ場の生育状況をしっかり確認し、防除適期を逃さないようにしましょう。4月3日発表の「ムギ類赤かび病情報第1号」を参考にして防除を実施しましょう。

ムギ類うどんこ病は、春が温暖で雨が多く、ムギが早くからよく繁茂した年に多く発生します。4月上旬の調査では、複数の地点で初発を確認しています。ほ場の発生状況に注意し、上位葉に病斑の進展が見られる場合は、赤かび病の防除の際にうどんこ病にも適用のある薬剤を選択するなどして防除しましょう。

水稻の育苗期防除

普通期栽培のは種作業が始まります。次の1～6に注意して適正な種子消毒に努めましょう。

- 1 細菌性病害にも効果のあるテクリードCフロアブルなどを用いて、種子消毒を行いましょう。浸漬処理法の場合、薬液温度は極端な低温にならないようにしましょう。また、処理濃度と時間を守りましょう。種子消毒後の廃液は、適切に処理しましょう。浸漬処理後の廃液処理が困難な場合には、塗沫法などの使用方法に切り替えるか、微生物農薬や温湯種子消毒を利用しましょう。
- 2 エコホープDJなどの微生物農薬を利用する場合、薬液の温度が10℃以下、30℃以上では効果が劣るので、処理温度に注意しましょう。
- 3 温湯種子消毒の場合、適切な処理温度、時間（例：60℃、10分）を守りましょう。
- 4 種子消毒後は病原菌の汚染がないよう管理しましょう。
- 5 催芽温度は30～32℃を守りましょう。
- 6 高温での浸種や長時間催芽は細菌感染を助長するので避けましょう。

落葉果樹の病害虫

ナシ黒星病について、4月上旬の巡回調査では花そう基部での発生量は平年並でした。名古屋地方気象台4月11日発表の1か月予報によると、向こう1か月の降水量はほぼ平年並の見込みですが、今後、降雨に伴い発生量が増えるおそれがあります。ほ場での発生状況に十分注意するとともに、発病した部位（りん片、葉および果実）は見つけ次第除去し、ほ場外へ持ち出して適切に処分しましょう。また、ナシ赤星病の感染時期を迎えていますので、黒星病とともに防除しましょう。防除の際は、薬剤耐性菌の発生を防ぐため、同一系統薬剤の連用は避けましょう。

モモを加害するクワシロカイガラムシの防除適期は、1 齢幼虫の発生ピーク時です。本日発表の「モモのカイガラムシ類情報第1号」を参考に、適期に防除しましょう。

果樹カメムシ類の飛来はやや多い

果樹カメムシ（チャバネアオカメムシ）の昨年秋の予察灯における誘殺数はやや多い状況でした。果樹カメムシ類の越冬世代成虫は、発生量が多い年、少ない年を交互に繰り返す傾向があり、令和6年は多い傾向がある年と考えられるため、チャバネアオカメムシの果樹園への飛来数は6月末までやや多いと予測します。詳細は、4月3日発表の「果樹カメムシ類情報第1号」を参照してください。

果樹カメムシは夜温が上昇すると、活動が活発になります。今後の園内への飛来状況に注意しましょう。

ナシヒメシンクイの発生に注意！

フェロモントラップによるナシヒメシンクイ越冬世代の成虫誘殺数は豊田市（モモほ場）および豊橋市（ナシほ場）で多い状況です。越冬世代成虫は展葉したモモの葉に産卵し、ふ化した幼虫が新梢に食入して芯折れを引き起こします。本虫の防除適期は、卵から幼虫がふ化するタイミングです。本年は現在までに誘殺ピークは見られていませんが、平年は4月第1半旬から第2半旬に誘殺ピークとなります。今の時期の気温では、成虫誘殺ピークから2～3週間後が幼虫のふ化ピークと予想されます。適期を逃さないように防除しましょう。

果菜類の病害虫

ナスのアザミウマ類（ミナミキイロアザミウマ）の発生がやや多い状況です。同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション防除を心がけましょう。天敵を導入しているほ場では、天敵への影響が少ない薬剤を使用しましょう。

トマトキバガの発生に注意！

トマト等を食害するトマトキバガは、県内では昨年10月に複数地点でフェロモントラップへの誘殺が確認されました。本県では今のところほ場での発生は確認していませんが、3月以降、既にフェロモントラップへの誘殺やトマト施設での発生を確認している県もあります。今後、気温が高くなるとハウスだけでなく露地での発生も懸念されます。ほ場をよく観察し、疑わしい被害が認められた場合は、病害虫防除室またはお近くの農業改良普及課へお知らせください。被害の様子等は「令和5年度発生予察特殊報第1号」を参考にしてください。なお、防除の際はトマトキバガに適用のある農薬を使用しましょう。

ウイルス媒介虫を施設外に出さないようにしましょう！

トマト黄化葉巻病やトマト黄化病、キュウリ黄化えそ病の防除対策の基本は、ウイルス媒介虫を「施設内に入れない」、「施設内で増やさない」、「施設外に出さない」の3つです。収穫期間中はウイルス媒介虫であるタバココナジラミ（トマト黄化葉巻病、トマト黄化病）やオンシツコナジラミ（トマト黄化病）、ミナミキイロアザミウマ（キュウリ黄化えそ病）の防除を徹底しましょう。なお、次作の感染源を減らすため、収穫終了後は残さを持ち出す前に施設を密閉して、ウイルス媒介虫を死滅させましょう。

フェロモントラップなどの各種調査データは、HP「あいち病害虫情報」（アドレス：<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/index.html>）を参照してください。

問合せ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室
TEL 0561-41-9513 FAX 0561-63-7820